

看護実践能力修得度調査からみた教育評価 第2報

新潟医療福祉大学 看護学科・
中山和美, 袖山悦子, 坪川麻樹子, 宇田優子

【背景】

昨年, 本学卒業時にどのような看護実践能力が身についたか実態を明らかにすることを目的に研究に着手した. 昨年は「ヒューマンケアの基盤能力」はある程度身につけているが満足いくレベルには達していないことが明らかになった. そこで昨年と同じ調査を実施し考察を試みたので報告する.

【方法】

A 大学看護学科4年生79名を対象に卒業前の2月に調査票を配付したところ74名の回収があった. そこで得られたデータを研究として取り扱うことの可否を同意書により確認した. 調査は看護実践能力55到達目標に対し「自信がない」から「自信がある」を4段階でチェックさせた.

【結果】

研究の趣旨を説明し同意の得られた63名の結果を本研究において分析した. 55項目の到達目標に対し, 「まあ自信がある」と「自信がある」と回答した学生の割合(%)を昨年度学生と比較した.

表1. 到達目標と自信がある割合

到達目標の項目	23年	24年
人を尊重する行動がとれる	82.3	82.4
人間の尊厳・人権擁護の行動ができる	83.8	83.8
対象の意思決定を支援できる	85.3	86.5
援助的コミュニケーションを展開できる	85.3	86.5
対象と援助関係を形成できる	88.3	86.5
実践において理論や先行研究を活用できる	44.1	43.2
批判的思考や分析方法を活用して計画する	45.6	60.8
個人を把握し健康状態をアセスメントできる	82.3	86.5
学校・職場の健康問題を把握する	42.6	35.1
身体に働きかける技術を実施できる	77.9	81.1
健康増進関連の政策と活動が説明できる	45.6	29.7
急激な健康破綻患者の看護ができる	45.6	36.5
精神的危機状況の患者の看護ができる	45.6	37.8
慢性的患者の社会資源活用を説明できる	41.2	44.6
感染予防対策を理解し行動できる	80.9	79.7
医療事故防止対策を理解し行動できる	82.3	74.3
国際化の中で看護のあり方を説明できる	27.9	28.4
自己の看護を振りかえり課題に取り組む	88.3	79.7
生涯にわたり学習成長し続ける	86.8	78.4
専門性を発展させる重要性が説明できる	85.3	73.0

注) 記載の制限から省略した項目あり

1. 「人の尊重」「人権擁護」「意思決定の支援」「援助的コミュニケーション」「対象との援助関係形成」における自信ありと答えた割合は, 昨年とほぼ変わらず82%~86%である.

2. 「医療事故防止対策」「自己の看護の振り返り」「生涯にわたる学習」「専門性の発展」の項目は昨年度80%以上だったものが70%台に低下している.

3. 「学校職場の健康問題把握」「健康増進政策と活動」「急激な健康破綻患者の看護」「精神的危機状況の患者の看護」は昨年度40%台だったものがさらに30%台に落ち込んでいる.

4. 「批判的思考等を活用した計画立案」や「身体に働きかける技術の実施」は昨年に比較して高い.

以上の結果から, 昨年同様にI群「ヒューマンケアの基本に関する実践能力」は修得できたが, II群「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」III群「特定の健康課題に対応する実践能力」IV群「ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力」V群「専門職者として研鑽し続ける基本能力」は不十分と考えた.

【考察】

平成23年に看護実践能力については5能力群, 20看護実践能力, 55到達目標が設定されたが, それを受け平成24年1月に日本看護系大学協議会が全国の看護大学生765名(うち回収率50%)を対象に行った調査で, 24年8月に報告された結果¹⁾と照合してみたところ20の実践能力のうち19で到達度が下回っていることが明らかになった. そのうち「計画的に実践する能力」「地域特性と健康課題を査定する能力」「健康の保持増進と疾病を予防する能力」「終末期にある人々を援助する能力」で顕著であり, 0.5ポイントの低下を認めた. このように全国レベルで比較して自信がある割合が低いこと, 2年にわたり看護実践能力I群では自信があると回答するものの, II群からV群で自信がある学生が少ない状況があることは看過できない. その原因を今回の調査から明らかにすることはできなかったが, 現在行っているカリキュラムや学習内容・方法の見直しは一考に値すると思われる. また, これまでディプロマポリシーを学生に十分伝えてこなかったために卒業時になっても学生自身の意識が希薄であるという側面も考えられる. 学生に到達目標を認識させて学習に臨ませ, 看護実践能力が修得できるよう教育していきたい.

【結論】

現行の教育内容によって「ヒューマンケアの基本に関する実践能力」は修得できたが, 他の4能力については十分でない学生が多いことが明らかになった.

【文献】

- 1) 日本看護系大学協議会: 大学卒業時到達度の評価手法開発のための調査研究報告書, 2012. 3